

■長与専斎 医師，衛生行政家。近代医療や衛生を先導し，女子の医者への進出を支援するなど，時代に先駆けた。

ながよせんさい
適塾ホヰン・ 1838＝ 肥前国大村城下で，御家人末裔から藩医となった長与家の養嗣子中庵の子に生まれる。

天保改革始・ 1841＝ 3歳：祖父長与俊達が期待をかけていた父が急逝，以後，孫に期待をかける祖父に育てられ，

祖父俊達は長い間天然痘対策に悩んできたが，

阿部正弘首座 1845＝ 7歳：
孝明天皇・・・ 1846＝ 8歳：その嫡子となる。
・・・・・・ 1847＝ 9歳：この年，**緒方洪庵が祖父俊達を訪ねて来る。**
・・・・・・ 1848＝10歳：この年，長崎に着任した商館医の牛痘法が成功したのを知るや，専斎の妹や家僕を送って種痘させ，
北斎没・・・ 1849＝11歳：九州初の藩校{五教館}に入学。この年，祖父俊達は苦勞の末，藩の許可得て自宅種痘を開始。

ペリー来航・ 1853＝15歳：
開国開港・・・ 1854＝16歳：{五教館}を卒業，多くが江戸に出るなか，祖父の勧めで**大坂の緒方洪庵の適塾に入る。**
安政大地震・ 1855＝17歳：祖父長与俊達が病没の報に衝撃受けるも立ち直り，家督を相続。
松下村塾・・・ 1856＝18歳：

4年先輩の福沢諭吉とも知合う。

五ヶ国条約・ 1858＝20歳：江戸に赴いた福沢諭吉の後を受けて，**塾頭となる。**
安政の大獄・ 1859＝21歳：自らも江戸に出たいと師洪庵に願い出たところ，ボンペが医学伝習し始めた長崎に行くべしと言われ，
桜田門外変・ 1860＝22歳：この年，長崎に日本初の洋式病院小島養生所(のち精得館)がつくられる。塾頭を辞し，久しぶりに帰郷した後，**長崎に行き，松本良順に願い出て医学伝習所に入り，ボンペに医学を学ぶ。**

遣欧使節・・・ 1861＝23歳：知合ったオランダ通詞本木昌造の勧めもあって，私塾を開き，
生麦事件・・・ 1862＝24歳：ボンペが帰国，ボードウィンに替わる。大村藩士後藤多仲の娘園子と結婚して，長崎に定着し始めたが，
8月18日政変 1863＝25歳：藩命で大村に戻され，世子療養掛となり，家業を継いで**大村藩侍医となる。**
薩摩藩士密航 1865＝27歳：鉄砲で重傷をおった藩主のため，長崎に遣わされてボードウィンの教え受け，治療に成功したことから，
薩長同盟・・・ 1866＝28歳：長男称吉(のち長与胃腸病院院長)が誕生。**藩命で再び長崎に遊学し，ボードウィンに師事。**
大政奉還・・・ 1867＝29歳：この年起こった大村騒動に連座しないで済み，変名使って長崎に来ていた維新の志士らとも知合い，
明治維新・・・ 1868＝30歳：維新後，学生間の投票で，**長崎精得館頭取(改称で長崎医学校学頭)に就任すると，厳格なマンスフェルトに申し出て全面的な共感と指導を得，長崎裁判所判事井上馨の賛同もあって，教育体制改革を実現。**

初の日刊新聞 1870＝32歳：この間，国ではドイツ医学に重点が移る。医学校が大学の所管となり，大学小博士となる。
廃藩置県・・・ 1871＝33歳：命により上京**新設の文部省に入り，文部大丞田中不二麿の随員として岩倉使節団とともに渡米，途中申し出て単身渡欧，日本人俊秀らのいるベルリンを本拠に，医学教育・医療制度を視察して自信を深める。**
学問のすすめ 1872＝34歳：長女が誕生。**医療福祉制度・保健のことを知って，畢生の任務にしよう**と決意，
明治6年政変 1873＝35歳：帰国し，文部省医務局長。日本初の医療・衛生法規”医制”の草案作成。薬品検査の司薬場を三府に設置，
佐賀の乱・・・ 1874＝36歳：**東京に牛痘種継所を設ける。東京医学校校長となり，**
初の民間工場 1875＝37歳：次男が誕生。***同局の内務省に移管に伴い，“衛生”の語を発案して承認され，初代の衛生局長となる。**
三つの反乱・ 1876＝38歳：**内務大丞となり，アメリカ・フィラデルフィアでの独立百周年記念博覧会にあわせ，万国医学会に出席。各州を調査し，情報交換ルートも開拓。東京医学校を本郷の旧加賀藩邸に移す。**

西南戦争・・・ 1877＝39歳：東京医学校が東京大学医学部となり総理心得。**コレラ予防心得を草して府県に通達。**
大久保暗殺・ 1878＝40歳：三男又郎(のち医学者，東大総長)が誕生。**脚気施療病院を設立。**
琉球処分・・・ 1879＝41歳：次女が誕生。母が死去。コレラ対策を機に設置された中央衛生会委員。***医師資格試験制度を本格実施。**
明治14年政変 1881＝43歳：以降4年，日本薬局方編纂委員。
新体詩抄・・・ 1882＝44歳：東京検疫局幹事長。中央衛生会副会長。**愛知病院にいた後藤新平からの建議書に感銘し，登用を実現，以後，二人三脚的に諸事業を推進して行く。伊勢二見浦海水浴場を開設。**

岩倉具視没・ 1883＝45歳：四男(岩永)裕吉(のち同盟通信社社長)が誕生。佐野常民会頭に大日本私立衛生会が発足し副会頭。
秩父事件・・・ 1884＝46歳：男尊女卑のなか尽力し，**女医1号荻野吟子の誕生を実現。東京府知事芳川顕正と協議し下水道推進。鎌倉由比ヶ浜海水浴場を開設。**

内閣発足・・・ 1885＝47歳：三女が誕生。検疫事務取調委員。種痘規則制定。岩倉具視の遺志を受け，熱海に結核サナトリウム{?汽園}を開設。**東京市区改正審査委員となり，水道改良も推進。**

帝国大学始・ 1886＝48歳：茂木惣兵衛らの寄付により熱海梅園を開設。内務省衛生局長のまま元老院議員となる。苦難の末**日本薬局方**を制定し，**大日本製薬会社が設立される。**

国民之友始・ 1887＝49歳：由比ヶ浜海水浴場に鎌倉海浜院(ケアハウス)を開いたが，

初の対等条約 1888＝50歳：閉鎖され，ホテルになる。五男善郎(のち作家)が誕生。日本薬局方調査委員長。

帝国憲法発布 1889＝51歳：大日本**帝国憲法発布**記念章を授与される。医術開業試験委員長。

帝国議會始・ 1890＝52歳：衛生局長のまま**中央衛生会会長となり，勅撰貴族院議員となる。**

足尾鉉毒始・ 1891＝53歳：***草創期の衛生行政の頂点に立って基礎づくりしてきて18年，ようやく依願退官。**

大本教・・・ 1892＝54歳：中央衛生会会長のまま，宮中顧問官となる。帰国した北里柴三郎に活動の場を，福沢諭吉と協力，

郡司千島探検 1893＝55歳：森村市左衛門からの寄付をバネに，伝染病研究所が実現され，顧問格となる。

日清戦争始・ 1894＝56歳：自ら開いた鎌倉の海水浴場で，次女が溺死し衝撃を受ける。

日清戦争終・ 1895＝57歳：臨時検疫局長。勲二等瑞宝章。

白馬会・・・ 1896＝58歳：旭日重光章。

子規句歌革新 1898＝60歳：従三位，

この間，自伝「松香私志」の執筆に専念しながらも，度々地方に赴くなどして，**衛生思想の普及につとめながら，爵位も学位も無く，**

ビヲ/国産化・ 1900＝62歳：臨時検疫局副総裁を兼任。

田中正造直訴 1901＝63歳：**大日本私立衛生会会頭になるも，**

教科書疑獄・ 1902＝64歳：体調悪く辞任し，正三位，勲一等瑞宝章を授けられてまもなく，「松香私志」を遺して**没した。**